

管理職の皆様へ

服務規律確保に向けた取組事例

令和7年4月 東部教育事務所

服務規律を確保するためには、基本的な取組を継続するとともに、自校の課題に即した工夫を行い、取組が形骸化しないようにすることが大切です。そこで、管内の学校等の取組の中から、ちょっとした工夫を行っている事例を紹介します。

行動計画を作成する上での工夫



自校のリスクや課題について「テキストマイニングツール」を活用して全職員の意識調査を行い、その結果を行動計画に反映しました。

著作権・肖像権侵害やオンラインカジノ等、職員の意識が低いと思われる課題を行動計画に反映しました。



自転車のながらスマホ・酒気帯び運転の罰則強化等、今後課題になることを踏まえ、新たな行動目標を追加しました。



規律確保行動計画作成要領では、行動目標の設定について「各学校の課題及び昨年度の取組状況を明確にし、実態に応じて定める」とされています。紹介した取組のように、全職員が参画できるようにしたり状況の変化等を踏まえたりして作成し、行動計画が形骸化しないようにすることが大切です。

重点項目等を日常的に意識する工夫

重点項目等に関するキャッチフレーズや標語等を作成し、職員室内に掲示したり打合せの際に使用したりしています。



校務用PCを起動した際、重点項目等に関するメッセージが流れるようにしました。

毎月の安全点検日に全職員で机上整理を実施し、個人情報管理に関する課題を継続的に意識できるようにしました。



重点項目等は、職員が日常的に意識できるようにすることが大切です。紹介した取組は、重点項目等について普段から目や耳にしたり、日を決めて実行したりすることで、日常的な意識化を図っています。

より自分事化するための工夫



ヒヤリハット事例が起きた際、個別指導を行うとともに、再発防止に向けた学校としての取組を共有しています。

事例を基にした研修では、その事例を自分に当てはめ、社会的・経済的影響等について考えられるワークシートを活用しています。



職員がローテーションで講師となり、失敗談も踏まえて語り合うことで、事例をより自分事化できるようにしています。



多くの学校で、事例を基にした研修を実施しています。その際、「何が問題だったか」「どうすると防げたか」「自身や自校ではどうか」「自分にとってどんな影響があるか」まで考え、それを共有していくことが大切です。

職員の小さな変化に気付く工夫

毎日できる限り職員に声をかけ、雑談の中から職員一人一人の状況を知るようにしています。



同僚が感情的になっているときなどには、立場に関係なくひと言「せんせい」と声をかけるようにしています。

研修目的以外でも職員同士の授業参観を日常化し、気になることを伝え合うようにしています。



服務規律確保のためには、管理職だけでなく、チームとして取り組む意識をもつことが必要です。「同僚に声をかけたり気付いたことを伝えたりすることは、大切な仲間を守ることにつながる」という意識を職員全員がもてるようにすることが大切です。

取組の効果を上げるための大前提として、次の2点も確認しましょう。

支持的な学校風土

- 職員が「認められている」と実感していますか。職員同士で互いに助け合う雰囲気はありますか。働きやすい職場づくりを進め、職員のストレスを軽減することが大切です。
- 管理職に何でも相談できるような信頼関係はありますか。最後は、「この人に迷惑はかけられない」といった意識をもってもらえるようにすることが大切です。

人事管理の意識

- 職員を「信頼すること」と「信用すること」の違いを意識しましょう。「誰もが問題を起こす可能性がある」という意識で人事管理を行うことが大切です。

